

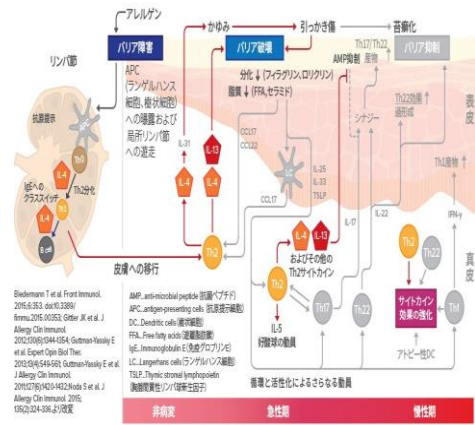
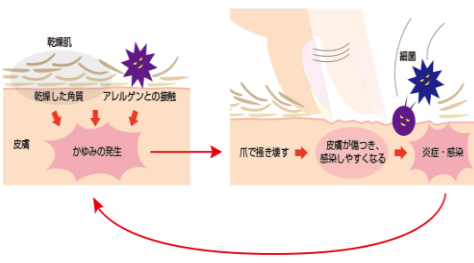
アトピー性皮膚炎

新しい治療を中心に

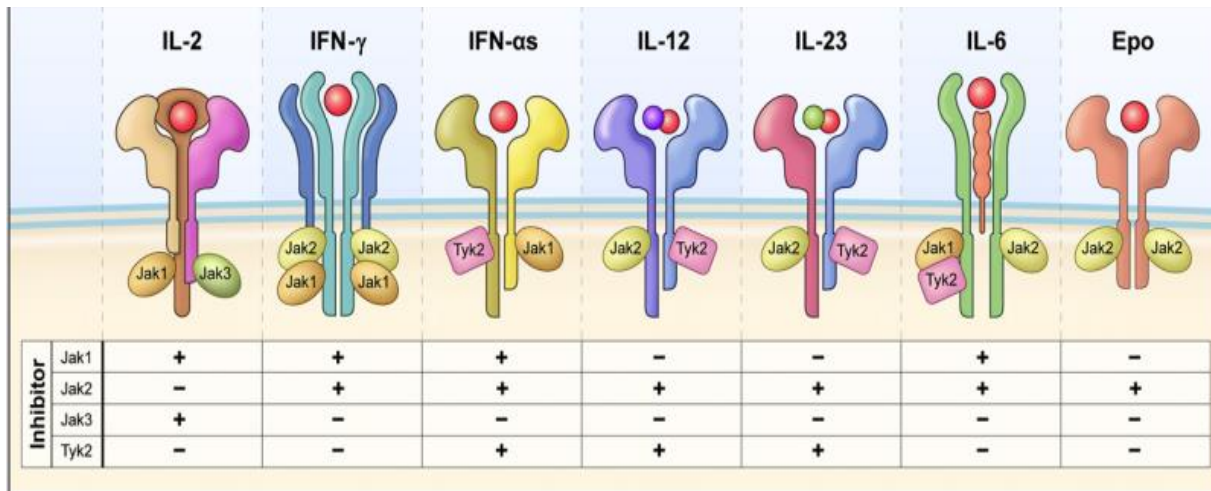
アトピー性皮膚炎の軟膏



- 1) ステロイド軟膏
- 2) プロトピック軟膏
- 3) コレクチム軟膏



<https://www.academiadermatitisatopica.co/fisiopatologia>



O'Shea JJ, Plenge R. JAK and STAT signaling molecules in immunoregulation and immune-mediated disease. *Immunity*. 2012 Apr 20;36(4):542-50. Review

コレクチム軟膏

新しい作用の薬

コレクチム軟膏は、デルゴシチニブというJAK阻害剤でできています。

JAK阻害剤 待望の軟膏

JAKというのは、左下の図のように、細胞の膜にある受容体において、インターフェロンやインターロイキン等の免疫の反応において、刺激が作用して細胞内にシグナルを伝える際に必要な、重要な酵素のひとつです。

JAKという物質が同定されてから、免疫反応が強いために起こる病気の治療薬として、期待されてきました。そして今ではJAK阻害剤は、リウマチなどの治療薬として、重要な薬になりました。

その薬が、軟膏となり、2020年6月ついに、アトピー性皮膚炎に対し、保険で使用できるようになりました。

その成分のデルゴシチニブは分子量が約310と小さいので、経皮的に吸収されます。「1日2回、1回の塗布量は5gまで」と決められました。

JAK

JAKは、ヤヌス キナーゼ (Janus Kinase) のこと。ヤヌス (Janus) は、ローマ神話に出てくる出入り口の扉の神、前と後ろに反対向きの二つの顔を持ちます。

この酵素 (Kinase) は、細胞の膜にあって、入口を管理する役割から、JAKと名付けられました。

左の図の、卵のような赤い球の形で表現したのが、IL2、IL4、インターフェロンなどのサイトカインという情報をもって来るもの。薄青い2本の線は、細胞の膜を、赤い球を両手を広げて受け止めているのが、受容体。JAKという酵素が付いた受容体があります。

このJAK受容体は、主にT細胞・B細胞・マクロファージ・樹状細胞の免疫反応などにおいて、根本的な制御を行っていることがわかり、阻害剤が作られ、関節リウマチなどに対し使用されています。

JAK阻害剤のアトピー性皮膚炎に対する薬は、治験進行中で、最初に認められた薬が、コレクチム軟膏です。

国内で開発中のアトピー性皮膚炎向けJAK阻害薬

2020年2月26日現在

開発段階	開発コード・製品名一般名	社名	対象	剤形
承認	コレクチム デルゴシチニブ	日本たばこ産業	成人	外用
P3	コレクチム デルゴシチニブ	日本たばこ産業	小児	外用
	オルミエント バリシチニブ	日本イーライリリー	小児・成人	経口
	PF-04965842 abrocitinib	ファイザー	12歳以上	経口
	リンヴォック ウバダシチニブ	アッヴィ	12歳以上	経口
P2	PF-06700841 —	ファイザー	12歳以上	外用
—	— ペフィシチニブ	マルホ	—	外用

各社の発表や臨床試験情報をもとに作成

<http://pharma.insights4.jp/archives/21715>